



東中筋小学校 道德科 授業づくり講座 教材研究会・授業研究会

東中筋小学校3年生の挑戦! 「親切ってどういうこと?」

四万十市立東中筋小学校で行われた、9月30日(水)教材研究会と10月13日(火)授業研究会での授業づくりの様子を紹介します。東中筋小2年目の小山恵理香教諭が、3年生5名と「親切」とはどういうことかを考える道德科授業に挑戦しました。

第3学年「拾ったりんご」 授業者: 小山 恵理香 教諭
【主題名】親切にすることのよさ 【内容項目】親切,思いやり B(6)

講師: 高知大学准教授 **森 有希 先生**

教材研究会

模擬授業後のリフレクション

【授業者から】

- ・「タクちゃんたちがしたことは親切といえるか。」ということをもとに心情メーターを使って話し合ってみたが、効果的だったか。
- ・「次は相手のことを考えて親切にしたい。」という考えを引き出すにはどうすればよいか。

授業者
小山 恵理香 教諭



推進教師
弘瀬 教諭

授業改善に生かすための協議

● 心情メーターの効果的な活用について

・ 心情メーターは、それぞれの考えを可視化するために有効である。「親切でない」にネームカードを貼った児童へは、「どうであれば親切?」等の発問で深めていく。

● ねらいに迫るための発問について

・ 「胸にこみ上げたあたたかいものって何かな。」と問うことで「相手が喜んでくれてうれしい。」という気持ちを引き出し、「次は相手のことを考えて親切にしたい。」という考えにつなげていく。

森 有希 准教授といっしょに教材研究!

教材分析表を使い、森准教授にご指導いただきながら参加者みんなで演習を行いました。内容項目と教材から、本時の指導の要点を決め、中心発問を考える演習のポイントを紹介いたします。

1 指導の要点

教材の概要の<価値の実現が難しい姿>から<価値に関して望ましい姿>の間にあるものは何かを考え、それに気付かせることを、本時の「指導の要点」に設定する。

3 中心発問

- 中心発問のポイントは、次の2点!
- ① 道徳的に変化した人物の、変化した場面での心情を問う。
 - ② 道徳的問題を解決するために大切なことやその意義を問う。

教材分析(指導と評価に関する検討) ※教材、内容項目の解説を読んで
3年 教材「拾ったりんご」【親切, 思いやり】

教材の概要	<価値に関して望ましい姿、様子(+)> (複数の価値が対立する教材は価値別の分析)	<価値の実現が難しい姿、様子(-)>
1	・人に優しくする・親切にする。 ・困っている人がいたら助ける ・自分から進んで助ける	・助けない・無視する ・知らん顔をする
指導の要点	拾ったりんごを返してあげただけで、良いことをしよう、親切にしようという気持ちがなかったにもかかわらず、そのことを大変感謝しているおばあさんのことを知ったときのほくほくとしたあたたかい気持ちは何かを考えさせる。主人公への自我関与を通して、相手の役に立てたことの喜びに気付かせ、親切についての考えを深めさせる。	
問題・課題の設定	問題意識をもたせる 主題提示 課題提示 問題提示	・タクちゃんたちがしたことは、親切といえるのか。 ・親切について ・本当の思いやりについて考えよう ・親切にするためには、どうすればよいのだろう。
中心発問	*道徳的に変化した人物の、変化した場面での心情を問う。 *道徳的問題を解決するために大切なことやその意義を問う。 ・むねにあたたかいものがこみ上げてきたとき、どんな気持ちだっただろう。 ・本当の親切とはどういうものだろうか。 ・どうすれば本当の親切といえるのだろうか。	
ねらい	りんごを拾った行為を、おばあさんの喜びと比べながら振り返るタクちゃんの心の動きを共感的に理解することを通して、親切にすることのよさを知り、進んで親切にしようとする道徳的実践意欲を育む。	

2 問題・課題の設定

問題・課題を設定することにより、児童が主体的に考える授業に向かっていく。
課題意識の持たせ方は、目指す授業による。

◆ 問題意識を持たせる

「タクちゃんたちがしたことは、親切といえるのか。」

◆ 主題提示

「親切について」

◆ 課題提示

「本当の親切について考えよう。」

◆ 問題提示

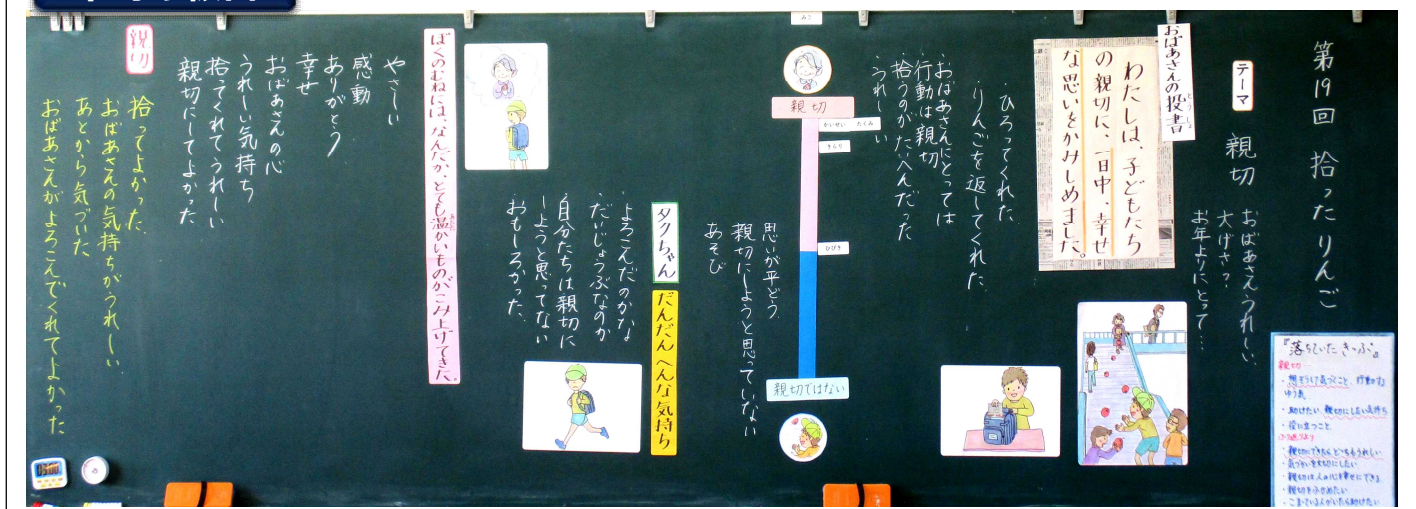
「親切にするためには、どうすればよいのだろう。」

子ども自身に問いを持たせることが大切!

本時の発問展開

- 投書に書かれた、おばあさんの「幸せな思いをかみしめた」とは、どんな思いでしょう。
- タクちゃんがだんだん変な気持ちになってきたのは、なぜでしょう。
- タクちゃんたちがしたことは、親切といえてよいでしょうか。
- ◎ タクちゃんのむねにこみ上げてきた「あたたかいもの」は何でしょう。
- 親切とはどういうことでしょう。

本時の板書



森 有希 准教授のご講話

本時の授業を振り返りながら、児童の発言に着目し、より主題に迫るためのポイントについて教えていただきました。

1 立場の違いを比較して考えさせるための工夫

タクちゃんたちがしたことは親切かどうかを考える場面で、児童から「気持ちは親切じゃないけど行動は親切」という発言があった。児童が「親切」を多面的・多角的に捉え始めたところで、どうすればそれを生かすことができるだろうか。一例として、板書の真ん中に横線を引き、タクちゃんとおばあさんの気持ちを上下に分けて書くなどの工夫が考えられる。立場の違いが明確になり、多角的に考えさせることができる。

2 自分ごとで考えさせるための工夫

タクちゃんが「親切」についてどう思ったかを考える場面で、児童から「なんか悲しい」という発言があった。児童がこのように抽象的な言葉で発言したとき、どのようなアプローチをすればより深めることができるだろうか。このような時には、「何が悲しいの?」「なぜ悲しいの?」などの問い返しにより考えを具体化したり、「○○さんもこんな気持ちになったことあるの?」など自分の経験とつなげさせたりすると、より児童の考えが引き出され、話し合いを深めていくことができる。

3 振り返りからもう一度深めるための時間設定

ワークシートの記述は、本時で児童が考えたことが表現されている。児童の記述の中には、もう一度児童に問い返し、みんなで深めたい言葉がある。振り返りを書いて終わり、または交流して終わりということが多いが、振り返りを書いた後の時間を確保し、もう一段階深めていく話し合いができるとうよい。

森 有希 准教授



参加者も自分ごとで!

参加者の声

- ◆ 子どもの考えを引き出す発問や問い返しができるようにしたい。また、子どもの考えを板書に書き分ける技術も身に付けたい。
- ◆ 道徳や他の教科で児童が主体的に取り組めるような話し合いの場を設定したい。
- ◆ 多面・多角の視点のもち方や、それを可視化することで子供の思考を深めていきたい。
- ◆ 振り返りからさらに深める時間配分で授業を構成したい。

授業研究会